

【全体概要】

県内のクルクマ生産は、碧南市で「シャローム」の切り花生産が、海部地域では愛知県育成品種「アイルージュ」の切り花生産と鉢花生産が行われている。「高品質な切り花と球根養成が両立した栽培技術」、「組織培養苗生産技術」及び、「低コストで良質な鉢花の6月出荷技術」を確立し、クルクマの安定生産を図る。

新品種・新技術等の概要

【技術1】高品質な切り花と球根養成が両立した栽培体系

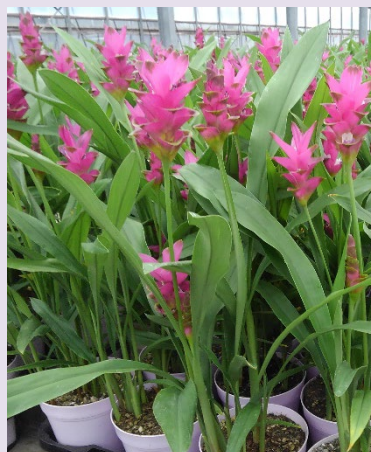
施肥管理の改善により、切り花の品質を落とすことなく、貯蔵根の着生量を向上させる技術の確立と普及。

【技術2】組織培養苗生産技術

鉢花生産者等への球根安定供給を目的とした組織培養技術の開発及び普及方法の検討

【技術3】低コストで良質な鉢花の6月出荷技術

6月出荷作型の無加温パイプハウスでの球根蒸込み処理や多層栽培ベンチにおけるLED補光による低コスト化技術の確立と普及

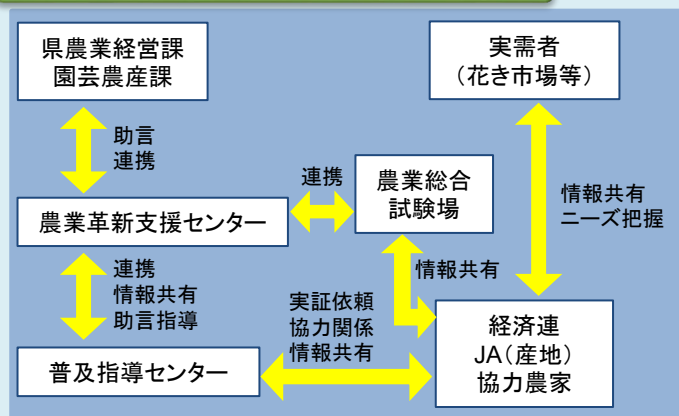


愛知県育成品種「アイルージュ」

主な取組内容

- 高品質な切り花生産と球根養成の両立可能な施肥管理方法を検証した。
- 組織培養苗生産技術の確立について、生産現場での実証と農業総合試験場での新しい知見に基づくデータ収集を行った。
- 無加温パイプハウスを用いた球根蒸込み処理やLED補光による低コストで良質な鉢花の6月出荷技術を検証した。
- 実証ほ及び農業総合試験場の試験結果について検討会議を開催した。
- 産地と実需者との情報交換会を開催した。

実施体制図



・農業革新支援センターが中心となり、農業総合試験場と協力し、生産者、実需者との連携を図りながら、事業の調整・進行管理を行う。

課題と今後の対応

【実績の概要と課題】

- 短日期の窒素施用は、貯蔵根の肥大を阻害した。切り花生産と両立させるための最適施肥法を明らかにする必要がある。
- 「アイルージュ」の組織培養苗生産技術は確立されつつあるが、生産効率や、組織培養苗の特性等が明らかになっていない。
- 「アイルージュ」の催芽処理には、20～30℃の遭遇時間が影響することを明らかにした。LED補光については、再検証を要する。

【今後の対応】

- 試験と実証を継続するとともに、組織培養苗の生産力検定を行う。
- 新技術を用いた栽培指針等マニュアル及び球根や組織培養苗の供給に関する手引を作成する。